

地球温暖化対策実行計画（事務・事業編） 令和3(2021)年度報告書

（令和3(2021)年4月1日～令和4(2022)年3月31日）

1. 温室効果ガス総排出量

令和3(2021)年度1年間、全職員がCO₂削減に向けた取り組みを実施した結果、下表のとおり8,374.56t-CO₂の排出結果となりました。

基準年度である平成25(2013)年度の排出量に対して、36.5%削減されました。

令和3年度活動区分別温室効果ガス総排出量

活動区分		活動量	単位	排出係数	単位	排出量	単位	
電気使用量		11,977,900.0	kWh	0.6130	kg-CO2/kWh	7,342.45	t-CO2	
燃料	ガソリン	1,444.5	L	0.0183	kgC/MJ	3.35	t-CO2	
	灯油	3,370.0	L	0.0185	kgC/MJ	8.39	t-CO2	
	軽油	59.0	L	0.0187	kgC/MJ	0.15	t-CO2	
	A重油	149,700.0	L	0.0189	kgC/MJ	405.63	t-CO2	
	液化石油ガス(LPG)	22,292.6	kg	0.0161	kgC/MJ	66.85	t-CO2	
公用車 走行距離	燃料	ガソリン	44,379.9	L	0.0183	kgC/MJ	103.04	t-CO2
		軽油	6,209.5	L	0.0187	kgC/MJ	16.05	t-CO2
	普通・小型乗用車	72,344.0	km	0.000010	kg-CH4/km	0.02	t-CO2	
				0.000029	kg-N2O/km	0.63		
	軽乗用車	332,592.0	km	0.000010	kg-CH4/km	0.08	t-CO2	
				0.000022	kg-N2O/km	2.18		
	普通貨物車	6,665.0	km	0.000035	kg-CH4/km	0.01	t-CO2	
				0.000039	kg-N2O/km	0.08		
	小型貨物車	29,888.0	km	0.000015	kg-CH4/km	0.01	t-CO2	
				0.000026	kg-N2O/km	0.23		
	軽貨物車	140,972.0	km	0.000011	kg-CH4/km	0.04	t-CO2	
				0.000022	kg-N2O/km	0.92		
	特殊用途車	8,363.0	km	0.000035	kg-CH4/km	0.01	t-CO2	
				0.000035	kg-N2O/km	0.09		
	普通・小型乗用車 (軽油)	822.0	km	0.000002	kg-CH4/km	0.00	t-CO2	
0.000007				kg-N2O/km	0.00			
普通貨物車(軽油)	1,256.0	km	0.000015	kg-CH4/km	0.00	t-CO2		
			0.000014	kg-N2O/km	0.01			

	小型貨物車（軽油）	82,068.0	km	0.0000076	kg-CH4/km	0.02	t-CO2
				0.000009	kg-N2O/km	0.22	
	特殊用途車（軽油）	886.0	km	0.000013	kg-CH4/km	0.00	t-CO2
				0.000025	kg-N2O/km	0.01	
終末処理場における下水の処理量	4,080,424.0	m ³		0.00088	kg-CH4/m3	89.77	t-CO2
				0.00016	kg-N2O/m3	194.55	
浄化槽の処理対象人員	6,470.0	人		0.5900	kg-CH4/人	95.43	t-CO2
				0.0230	kg-N2O/人	44.35	
コンロ、湯沸器、ストーブ等における灯油の使用量	0.0	L		0.0095	kg-CH4/GJ	0.00	t-CO2
				0.00057	kg-N2O/GJ	0.00	
コンロ、湯沸器、ストーブ等におけるLPGの使用量	46.1	kg		0.0045	kg-CH4/GJ	0.00	t-CO2
				0.00009	kg-N2O/GJ	0.00	
合 計						8,374.56	t-CO2

2. 具体的取り組み状況

全庁的な具体的取り組みをチェックした結果、下表のような状況でした。

項目	具体的取り組み	判定 ◎○△×
照明	事務室、会議室、トイレ等各部屋のこまめな消灯：全職員	◎
	市民サービスに支障がない範囲で昼休みの消灯：担当職員	◎
	退庁時の完全消灯：全職員	○
冷暖房	空調の適切な使用（室温目安夏 28℃、冬 20℃）：担当職員	◎
	クールビズやウォームビズの推進：全職員	○
	空調機器フィルターの清掃：担当職員	◎
	窓の開閉やブラインド、カーテンの適切な使用：全職員	○
事務機器 (全職員)	外出時 PC の電源 OFF	△
	事務機器の省エネモードでの使用	○
その他 (全職員)	マイボトルの持参	○
	給湯機やポット利用の合理化	○
	節水行動の推進	○
エコドライブ (全職員)	急加速、急発進をしない	○
	無用なアイドリングやエアコンの過度な使用をしない	○
	経済速度（等速での走法や車間距離の確保）運転の励行	○
	不要な物を積載しない	△
	適正な空気圧での使用	△

※ 判定欄の◎○△×の区分と判定について

◎：習慣化できたもの ○：概ね実施しているもの △：十分とは言えないもの

×：不十分で改善を要するもの

3. 評価・改善

新型コロナウイルス感染症の影響で、事業等が中止したり、小中学校が休校したりするなど、活動量が減少した令和2(2020)年度と比べ、令和3(2021)年度は電気使用量に増加傾向が見られました。オンラインでの会議が増加したこと、新型コロナウイルス感染症予防のため適度に換気が続けたことなど、新しい生活様式が浸透したことに伴い電気機器使用が増えたことが年間を通した電気使用量の前年度比増加につながった要因と考えられます。

基準年度との比較においては、施設の閉鎖による燃料の使用量が減少するなど、緩やかな減少傾向にあります。

次年度は、電気機器使用における節電のさらなる習慣化に努めます。さらに、電気のCO₂排出係数が下がっていますので、これを用いて計算すると集計結果よりさらに削減できた値になります。